

津軽ダムだより

203号

2017年

1月20日

～謹賀新年～



29.1.5撮影

【雪化粧した津軽ダム】

ダム直下流から撮影した津軽ダムです。ダム下流パーク内の管理橋（吊り橋）工事も進捗しており、管理橋から見上げた津軽ダムも迫力があります。下流パークが完成する今春以降に一般開放する予定となっておりますので、是非、迫力ある津軽ダムを見に来てください。

ところで、今年は酉年ですね。「酉」という字には「実る」「成熟する」という意味があるそうですので、今年本格運用を迎える津軽ダムにぴったりの年と言えそうです。また、本紙でもおなじみのキャラクター「ペッカーくん」は白神山地に生息する鳥、くまげらをモチーフにしたものです。ペッカーくん共々、今年も津軽ダムをどうぞよろしくお願い致します！



29.1.5撮影

【新展望所から津軽ダムと津軽白神湖を撮影】

津軽白神湖
Tsuruga-Shirakami-Lake



新年を迎えて

津軽ダム工事事務所長 鈴木 勇治



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、津軽ダム建設事業に対して温かいご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、津軽ダムは、目屋ダムの再開発事業として平成3年に建設着手以来、25年（四半世紀）の歳月を経て、昨年10月に竣工を迎えることができました。

これもひとえに、先祖伝来の貴重な土地をご提供いただきました地権者の皆様をはじめ、地元西目屋村、弘前市、青森県等の関係機関の皆様のご理解とご協力の賜と心から感謝を申し上げます。

また、これまで安全管理や品質の確保、工期の短縮等に徹底して取り組んでいただくとともに、幾多の困難を克服し、鋭意工事の施工にご尽力いただいた工事関係者各位に対し、深く敬意を表します。

津軽ダムは、旧目屋ダムの3.6倍の総貯水容量を持ち、洪水被害の軽減、かんがい用水の補給、水力発電、さらに水道用水・工業用水の供給、良好な河川環境の保全の6つの目的を持つ多目的ダムです。岩木川流域の皆様の安全と安心の向上、地域の産業や経済基盤の安定に効果が発揮できるよう、ダム周辺整備工事等の仕上げ工事を3月までに完成させるとともに、今年4月からの本格運用（管理移行）に向けて、しっかり準備を進めて参ります。

また、昨年は、地域活性化等に向けた取り組みとして、津軽ダムと周辺の豊かな自然や景勝地等を活用したダムツーリズム（ダムツアー、ライトアップ、水陸両用バス乗車体験会、カヌー体験など）に地元西目屋村が中心となり取り組んでいただき、県内外から多くの方々に参加して頂きました。

さらに、津軽ダム展望所（昨年秋に新たな展望所も完成）には平成23年度に開所以来、昨年末までに約25万人超の方々にご来場いただきました。ダム完成後の今春以降は、さらに多くの皆様のご来場を期待しています。今後、津軽ダムと世界自然遺産白神山地をはじめとする周辺エリアの魅力をより広く発信するとともに、近隣の自治体等とも連携しながら、より魅力有るダムツーリズムにつながるよう、地域と一体となって積極的に支援して参る所存です。引き続き、ご支援をお願いいたします。

本年が皆様にとりまして健康で幸多き年となりますようご祈念申し上げます。



【居森平ビューポイントから撮影した津軽ダム】

～津軽ダム竣工までの道のり～

「津軽ダム建設のあゆみ」

平成28年の津軽ダム工事事務所最大のニュースは10月16日に津軽ダムが竣工したことです。

津軽ダムは、昭和35年に完成した「目屋ダム」の再開発事業として、昭和63年4月に事業着手して以来、28年の歳月を経て竣工となりました。

そこで、これまでの道のりを「津軽ダム建設のあゆみ」と題して、紹介します。



【竣工した津軽ダム】

- 昭和63年 4月 実施計画調査開始（津軽ダム調査事務所）
- 平成 3年 4月 建設着手（津軽ダム工事事務所）
- 平成 8年12月 下流工事用道路着手
- 平成12年 8月 津軽ダム建設に伴う一般補償に関する協定締結
- 平成14年12月 下流工事用道路Ⅱ工区供用開始
- 平成19年 7月 県道付替ダムサイト迂回路開通
- 平成20年11月 津軽ダム本体工事着工式
- 平成22年 5月 津軽ダム本体コンクリート打設開始式
- 10月 津軽ダムの日（感謝と定礎の式典）
- 平成23年 6月 下流工事用道路（村市バイパス）供用開始
- 6月 展望所開所
- 平成24年 4月 「津軽白神湖」命名
- 10月 木戸ヶ沢貯水池保全施設定礎式
- 平成26年 5月 木戸ヶ沢貯水池保全施設堤体コンクリート打設完了式
- 8月 本体コンクリート打設完了式
- 10月 付替県道全線開通
- 平成28年 2月 湛水式（試験湛水開始）
- 9月 試験湛水終了
- 10月 竣工式



【実施計画調査開始(S63.4.1)】



【一般補償に関する協定(H12.8.8)】



【本体工事着工式(H20.11.17)】



【津軽白神湖命名(H24.4.25)】



【本体コンクリート打設完了式(H26.8.28)】



【湛水式(H28.2.13)】



【竣工式(H28.10.16)】



津軽ダム工事事務所では、平成29年3月までに工事を終え、4月からの本格運用に向けて準備を進めています。

～4月からの本格運用に向けて 貯水位が順調に回復しています～

津軽ダムは、平成28年2月13日より試験湛水を開始し、4月18日に洪水時最高水位に到達、その後、貯水位を下降させ、6月7日には、試験湛水終了水位に到達しました。

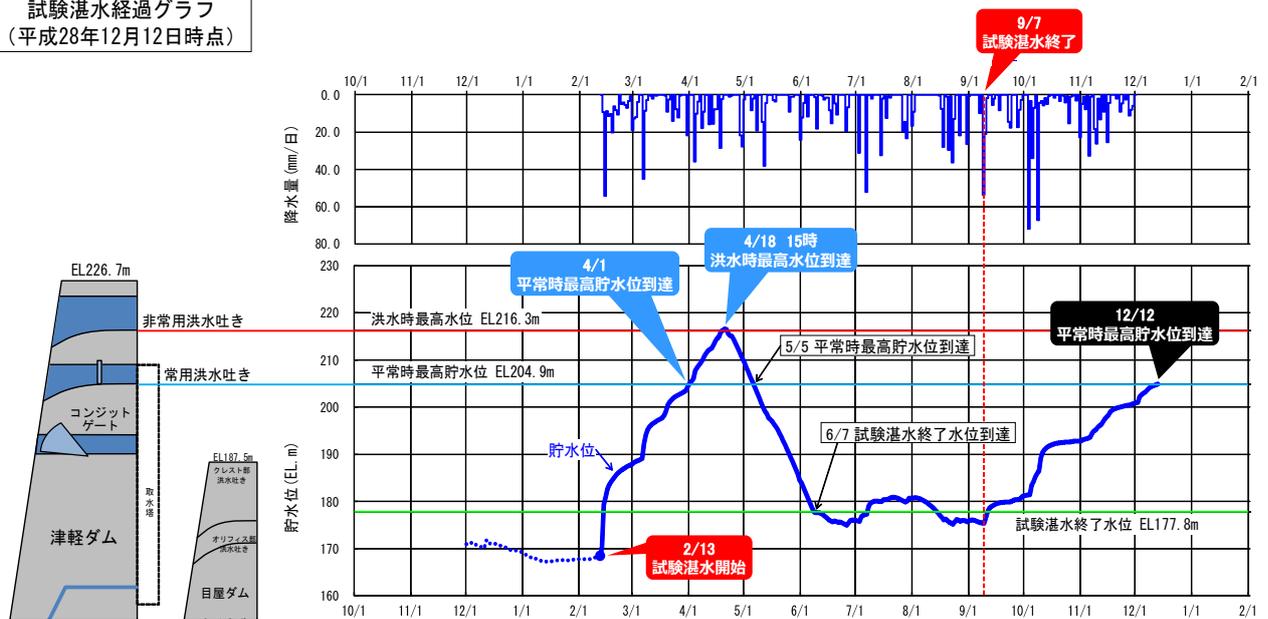
終了水位到達以降は、試験湛水における観測データの整理・詳細などのとりまとめを行い、ダム本体や基礎地盤、貯水池周辺地山等の安全性を確認し、9月7日に無事試験湛水が終了しました。

試験湛水終了以降、津軽ダムにおいては、来春のかんがい用水等を賄うために、ダムに水を貯めてきたところ、12月12日に「平常時最高貯水位」に達し、4月からの本格運用に向けて、順調に貯水位を回復しています。

平常時最高貯水位とは、洪水を貯め込む容量以外の、利水に使う水量（すなわち、かんがい用水や水道・工業用水、発電用水）が満杯になった事を意味します。

試験湛水終了水位となった6月から12月までの7ヶ月余りで、ダムの貯水位は約27m上昇し、約7,720万立方メートルの水をため込みました。

試験湛水経過グラフ
(平成28年12月12日時点)



【平常時最高貯水位に到達した津軽ダム】



【常用洪水吐から越流】

～今春 新たなダム広場(津軽白神湖パーク)がオープンします～

津軽白神湖周辺整備計画の一環として、西目屋村川原平地区において、周辺整備工事（津軽白神湖パーク）を行っております。

本地区の周辺整備方針は、「環境盛土による良好な景観形成・自然再生を図るとともに、周辺活動へのアクセス拠点整備及び湖面利用活動拠点整備を行うこと」と位置付けられております。もともとダム関連工事に伴う残土受入地としていた箇所ですが、学識経験者などを交えた委員会を設けて検討を重ね、残土を景観的にセンスの良い形状になるように盛り、植生することで、自然に親しむエリアとして有効活用するものです。

工事は、平成29年3月に完成を予定しており、現在の進捗率は約80%です。

また、平成28年11月19日には、弘前東奥ライオンズクラブが村へ10本の桜の苗木を寄付し、村長らとともに植樹祭を行いました。

パーク内に植えられた桜は「オオヤマ桜」という品種で、一般的に「ソメイヨシノ」より遅い時期に開花するため、弘前の桜まつりが終わった頃に、ここ西目屋村の桜を楽しむことができるかもしれません。

工事完成後は「津軽白神湖パーク」と称し、津軽白神湖を利用したカヌーやイベントなどを行う拠点の一つとなります。

学生や家族連れなどが自然に親しむエリアとして、多くの方に利用されることを期待しております。

津軽白神湖パーク完成予想図



津軽ダム艇庫周辺完成予想図



【植樹祭の様子】



【参加者全員で記念写真】

～「現場見学会」実施状況～

津軽ダム工事事務所では、「申し込みによるもの」と「事務所主催によるもの」2種類の現場見学会を実施しています。28年度におけるそれぞれの実施状況を報告いたします。

◎申し込みによる見学会（団体向け見学会）

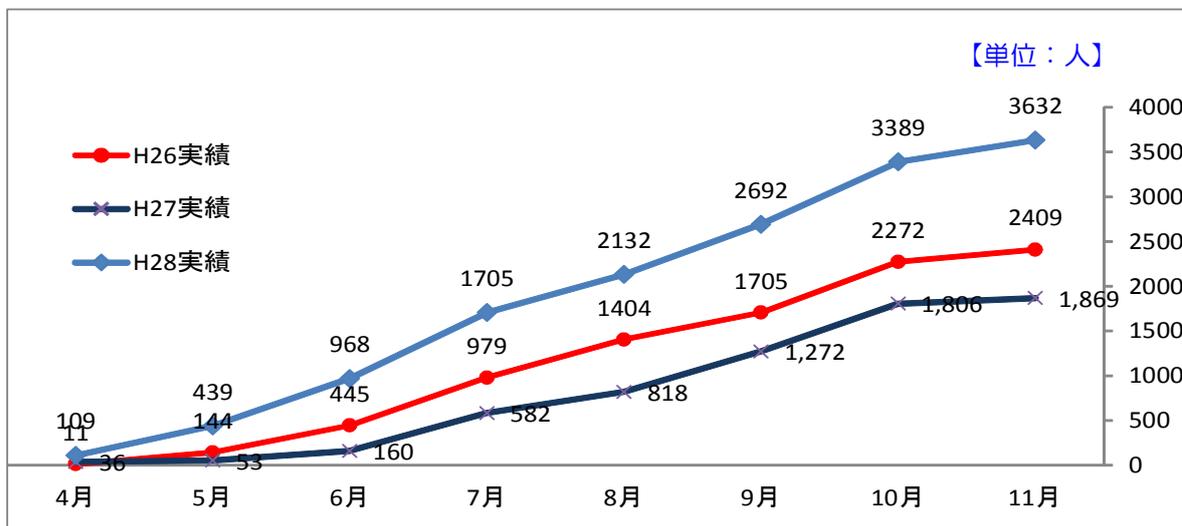
津軽ダムが28年度に完成するということから、建設現場を見学できるのがこれが最後となるため、例年と比較すると現場見学会への申し込み数が多い年でした。

試験湛水により、洪水時最高水位に達した4月に見学された方は、ダム天端から満々と水が貯まっている津軽白神湖周辺の景色やコンジットゲートからの放流状況も間近で見ることができたということで非常に喜んでいました。

現場見学会件数及び見学者数

年度	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		合計	
	団体件数	見学者数																
H26	1件	11人	5件	133人	13件	301人	23件	534人	18件	425人	12件	301人	27件	567人	5件	137人	104件	2409人
H27	2件	36人	2件	17人	6件	107人	17件	422人	13件	236人	14件	454人	21件	534人	4件	63人	79件	1869人
H28	5件	109人	9件	330人	20件	529人	33件	737人	20件	427人	20件	560人	28件	697人	10件	243人	145件	3632人

現場見学者累計推移



現場見学会の様子



【天端から望む見学者】



【展望所から望む見学者】



【天端で記念写真】

◎事務所主催による見学会（個人向け見学会）

季節毎に行われている事務所主催の見学会は、4月、6月、10月の3回開催し、全国から509名が参加しました。

平成28年度 事務所主催における見学会一覧表

開催日	見学会名	参加者数
4月20日	ダムツーリズムを考える会 & 津軽ダム見学会	299人
6月12日	津軽ダム・目屋ダムウォーキング	128人
10月30日	津軽ダム秋の見学会	82人
合計		509人

4月20日の見学会は、試験湛水中に行われ、18日に洪水時最高水位に到達し、19日から貯水位降下のため、コンジットゲートより放流していたので、間近から放流状況を見学したいという見学者が大勢参加していました。参加者は、迫力ある放流状況をご覧になって、驚嘆していました。



【津軽白神湖を撮影する参加者】

6月12日の見学会は、試験湛水の貯水位降下により、一度は津軽白神湖に水没した目屋ダムが再び出現したことから、将来湖底となる道沿いの周辺景色をご覧いただきながら目屋ダムまで散策し、最後に目屋ダム天端において、目屋ダムの今までの功績を讃え、感謝の気持ちをメッセージで書き残しました。



【目屋ダム天端に寄せ書きする参加者】

10月30日の見学会では、16日に竣工した津軽ダムから、紅葉している津軽白神湖周辺の景色を楽しんでいただきました。天候に恵まれたことから津軽ダムと白神山地の鮮やかな景色を眺望し、参加者は非常に満足していました。



【紅葉を楽しむ参加者】

津軽ダム工事事務所では、見学会に参加された皆様にご協力いただき、アンケートを実施しております。皆様から頂戴した貴重なご意見・ご要望は、今後の見学会等に役立ててまいります。

＜見学会におけるアンケート結果＞

「ダムツーリズムを考える会 & 津軽ダム見学会」

- ・減多に見られない水位の津軽白神湖を見ることができてよかった。
- ・コンジットゲートからの放流が迫力があって凄かった。
- ・説明を受けながら見学することで、ダムへの理解が深まった。
- ・ダム堤体の内部や管理所の中を見学したい。

「津軽ダム・目屋ダムウォーキング」

- ・両方のダムを比べて見ることで、津軽ダムのスケールに感動しました。
- ・目屋ダムへの様々な思いを抱きながら歩くことができてよかった。
- ・目屋ダムにお別れと感謝ができる機会に出会えてよかった。

「津軽ダム秋の見学会」

- ・ダム天端や美山橋からの紅葉景色がすばらしかった。
- ・これまでの工事経過などの記録映像が見たい。

～「津軽ダム展望所」来場者数～

全国からたくさんのご来場ありがとうございました

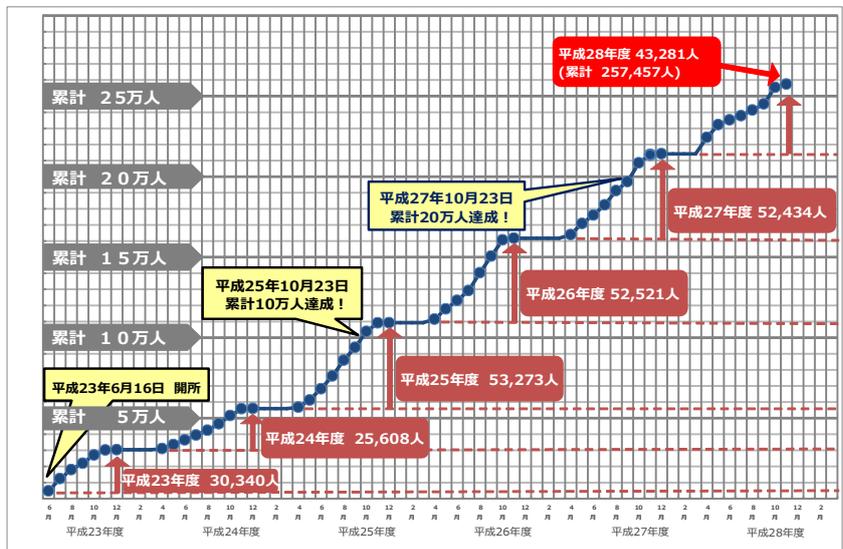
展望所では、津軽ダムの建設状況を間近からご覧いただけますが、平成28年は、例年より早い4月1日に一般開放し、放流状況や季節毎にライトアップした津軽ダムをご観いただきました。10月16日に津軽ダムが竣工し、新たな展望所が開所すると1ヶ月間で約9,600人が来場しました。4月には津軽ダムからの放流、10月には津軽白神湖周辺の紅葉をご観いただけるということで、月間約1万人が来場し、年間来場者数も約4万3千人を数え、津軽地方はもとより全国から大勢の方々に来場していただきました。

降雪時期を迎え、展望所は11月28日より閉鎖しておりますが、今年の一般開放は、4月中旬頃を予定しておりますので楽しみにお待ちください。



【4/19には約600人が展望所に来場】

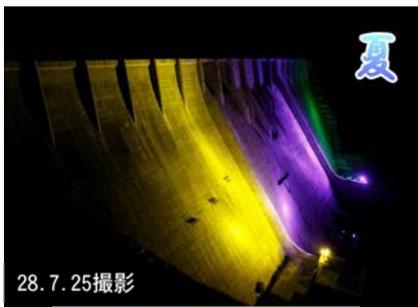
津軽ダム展望所 来場者数



季節を感じた展望所



【コンジットゲートより放流】



【ライトアップした津軽ダム】



【新展望所から紅葉を楽しみました】

★ 編集後記 ★

平成28年の津軽ダムは、2月に試験湛水を開始、4月には洪水時最高水位に到達し、迫力あるコンジットゲートからの放流、10月には竣工と慌ただしい1年でした。12月18日には、平成28年最も印象に残る働きをしたダムの功績を讃えようというダムファン有志による「日本ダムアワード2016」が東京において開催され、津軽ダムは、放流賞、ライトアップ賞にノミネートされました。残念ながら受賞はなりませんでしたが、「津軽ダム」の名前が全国的に知られるようになった一年だったと思います。(佐々木)

編集・発行

国土交通省 東北地方整備局
津軽ダム工事事務所

〒036-1411
青森県中津軽郡西目屋村田代字神田57

TEL 0172-85-3005
FAX 0172-85-3008



津軽ダム工事事務所
ホームページアドレス

<http://www.thr.mlit.go.jp/tugaru>